

2月に向けて

代表取締役 三田雅憲

寒さが厳しくなりました。身体に気を付けて、社員皆様今月も頑張ってください。

さて、現在熊本県においては、世界的な半導体メーカー「台湾のTSMC」の半導体工場建築が24時間体制で、急ピッチに進められているようです。

又そのメーカーへ取引をしてもらおうと、多くの日本企業が虎視眈々と狙っているようです。一方で、長年その会社と取引をしている、ある台湾の企業関係者は、このように話をされていました。

「半導体の世界では、2年程で次世代のスペックに置き換わる程のスピード感覚が求められる。つまり何か要求・要望されたら、クイックレスポンス（素早い対応をすること）が出来ないと相手にしてくれない。このようなことを考えると、日本企業のそれは対応が遅すぎるように感じる。

実務担当者や実務責任者に、もっと責任と権限を持たせて対応していかなければ、取引は難しいだろう。」と述べられていました。

又、DXでお世話になっているシャープの親会社がTSMCなのですが、その担当の方もその企業から来た経営陣や責任者の、判断や決断の早さが従来の経営陣と歴然の差があること、とても速いトップダウンが行われていることを話されていたので、この話はとても興味深く聞いておりました。世界で特に流れの早い業界において生き残るためには、そのような事柄も大切な要素になっていることを改めて感じました。

私どもの置かれている建築業界や車両業界では、安全という観点から良い意味でも悪い意味でも、少し時間がかかっている（デザインや図面決定、仕様決定など）が、ものづくりや加工に関してはスピードがあるようにも思えます。

生物の強さはその環境に適合出来たか、出来なかったかに関わってきます。必ずしも、がたいが大きいから生き残れる訳でもないし、毒があるからでもありません。環境変化に敏感に適合していけるような進化や改善が、出来ているかに関わっているように思います。そういった業界や世の中の環境変化を知るのに一番ふさわしいのは、見本市などの展示会に出展したり、営業でお客様を訪問して色々な意見を頂いたりすることです。

こういう意味でも今期3月10日大阪の大阪産業創造館で開催される「表面処理加工技術展2023」の出展が決定したのを皮切りに、名古屋での「建築総合展ナゴヤ」や、東京ビックサイトでの「店舗・商業空間デザイン展」などに当社も出展し、環境やトレンドについていけるように頑張っていきます。

又新しい仕上げのアイデアなどを持った社員はぜひ、申し出て頂きたいですし、新しい仕上げ提案をこの見本市でやっていきたく思っています。

又出展にあたってプロジェクトチームを組みます。そちらのご協力もどうぞよろしく願います。新しい仕上げで完成度が高く売れる物であれば、第10回の「日本ものづくり大賞」への挑戦もしていきたいと思えます。

2023年度以降、建築プロジェクトが堅調に動きます。社員諸君も日頃培ってきた技術力を見せていく絶好の時期になってきました。ただ、材料やエネルギーの高騰が続いていますので、改めてエコ経営（エコアクション21）の推進を社員皆で実現させていかねばなりません。

ちなみに近年の当社のエコに関する取り組みを報告いたします。まず、千葉白井第二工場は全てLED化とフォークリフトも電気車となっております。第一工場の事務所も2重窓とLED化が完了いたしました。本社においては、本社工場が一部LED化で事務所や食堂、図書室が断熱材とLED化が完了しております。大阪RI工場は全てLED化完了で、大阪第二工場も一部LED化で今回水研ぎ室のLED化と看板灯のLED化が完了いたしました。空調機も古いものを随時インバーター内臓の省エネ対応にしています。

エネルギー高騰が叫ばれて、電力やLPガスに関しても今まで以上の意識で、社員全員で省エネ、エコ経営を目指していきましょう。2月も忙しい月になりそうです。社員全員で頑張っ乗り越えていきましょう。